

育苗期間中のかん水に関する留意点

育苗期間中のかん水に関しては、

- ・ ポット全体に水分を浸透させる
- ・ 苗の状況を把握し、紙筒全体に浸み渡る十分な量のかん水
- ・ 気象変動にも留意した継続的なかん水の実施

を最重要ポイントとして、下記の事項に留意しながら対応頂けますようお願い致します。

1. 育苗期間中のかん水継続

・ 十分なかん水を心掛ける。

育苗期間中はポット全体に水分が行き渡るようにかん水を心掛ける。特に、苗ずらし等実施後は乾燥するので、ポットの下部まで浸み渡るようにかん水する。

・ 気象変動による寒暖差、及び強風に注意する。

一度乾燥したポットは水分が再浸透しづらくなり、糊の溶解も悪くなりますので、定植が遅延する場合は、定植日まで乾燥しないようかん水を継続する。

特に、気象変動による寒暖差、及び強風時にはポットが乾燥しやすくなるので、かん水回数・かん水量を多くするなどの対策を取る。また、ハウスから出す場合は、乾燥しないようシート等で乾燥を防止する等の対策を取る。

2. 定植前の抜取り確認

・ 土壌水分調査

定植 10～14 日前にポットを抜取り、土壌水分を確認する。
抜けない・破れる場合は、水分が不足しているので、ポット下部まで水分が十分に浸み渡るようにかん水を実施し、かん水翌日に再度抜取り、確認する。



- ①10cm 程度のドライバー等を使用し、紙筒上部が剥がれる程度に回転させた後、上部へ抜取る。
- ②軽く抜けることを確認し、抜取ったポット内の状況を確認する。



土が崩れる⇒水分が不足している。
【乾燥・かん水実施】

土が崩れない⇒水分が足りている。
【維持・継続】

3. 定植前の十分なかん水

・ 十分なかん水

定植 3～4 日前から、20～30 ㍓/冊を目安に数回に分けてかん水する。

・ ポットの水分確認

かん水翌日に紙筒を抜き取り剥がれづらいようであれば再度かん水する。
乾燥したポットは水分が浸透しづらくなり、糊の溶解も悪くなります。

《ペーパーポットの取扱い・保管方法について》

播種作業中はペーパーポットをなるべく日の当たらない場所や、気温の上がらない場所に置く。

残ったペーパーポットは、次年度まで長期間保管することになるので、日の当たらない場所や気温の上がらない場所での保管に努める。

作 成

日本甜菜製糖株式会社
北海道糖業株式会社
北海道農業協同組合中央会

ホクレン農業協同組合連合会
北海道農政部
(一社)北海道農産協会・